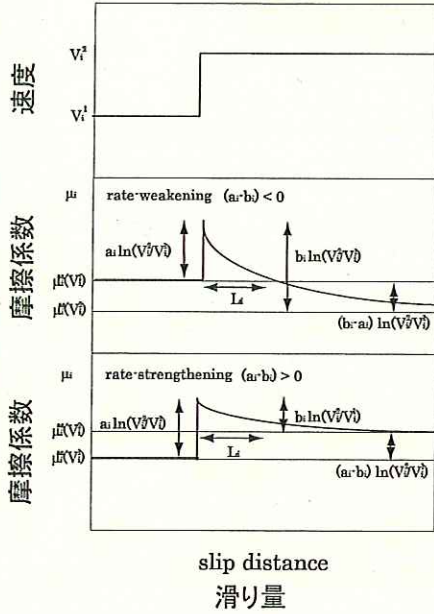


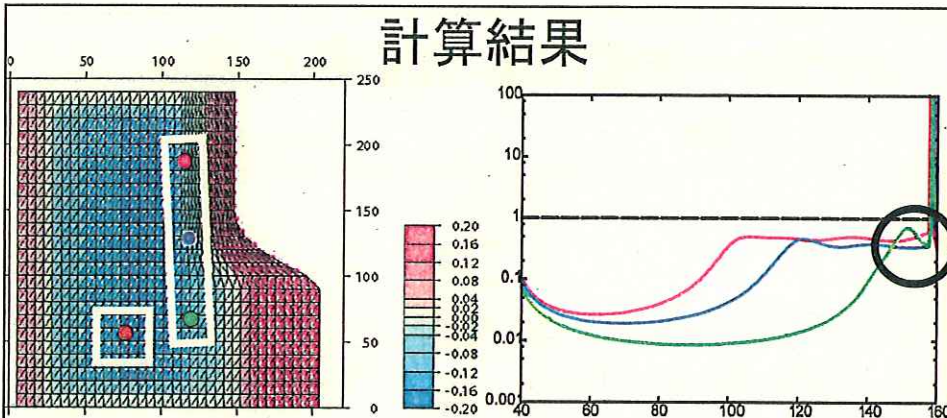
摩擦パラメータの特性



$a-b < 0$
不安定滑り ➡ 地震領域

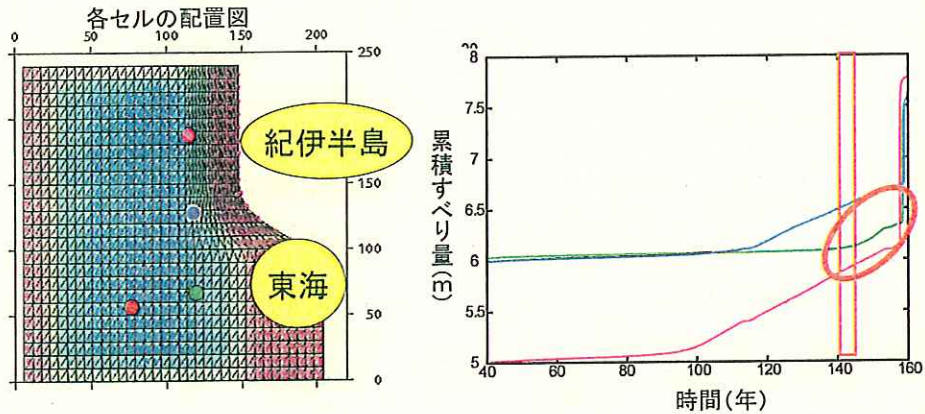
$a-b > 0$
安定滑り ➡ 非地震領域

計算結果



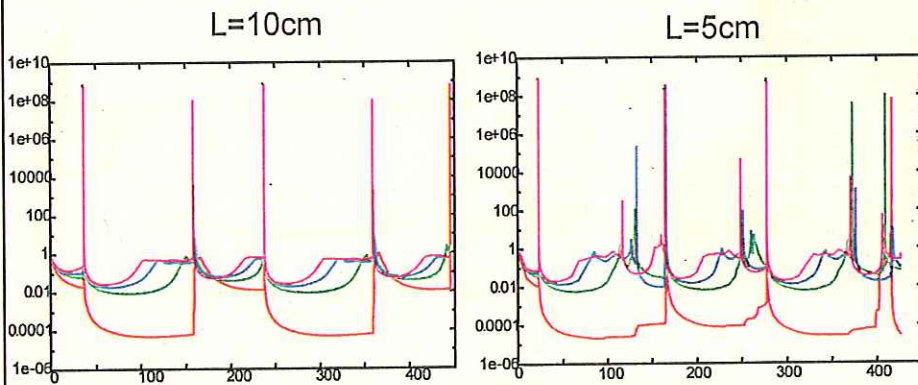
- スロースリップイベント発生
(プレートの傾斜が小さい領域)
- イベント前にプレート間の固着が弱くなる
→ イベントが固着の変化の指標となり得る

すべり量の時間変化



現在、東海スロースリップは発生前数年間のトレンドを引いて解析
 →長期の地震サイクルを調べるにはそのまま解析するほうがいい？

パラメータ値による結果の違い



↓
 現実を再現するパラメータ範囲はかなり限定

↓
 正確なモデルで巨大地震モニタリングの可能性